

第3回石川県能登地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和7年3月25日（火）13：00～

場 所：のと里山空港 42・43 会議室

出席者：別紙のとおり

1 開会

（高橋企画振興部長）

本日もご多忙の中、出席いただき感謝申し上げます。能登半島地震から1年3カ月、奥能登豪雨から半年が経過した。一日でも早い復興を目指し、関係者の尽力により順次公共交通が再開しているところである。

今月7日から、団体臨時列車ということではあるがJR七尾線観光列車「花嫁のれん」が運行を再開し、来月からは、のと鉄道の「のと里山里海号」が「震災語り部列車」として運行を再開する。一方で、路線バスは運転士不足で震災前と比べ運行本数が大きく減少しており、来年度はこれらの課題への対応に向けて精力的に協議を行っていききたい。今後能登が本格的な復興を果たしていくためには、将来の能登の姿を見据えた、持続可能な公共交通の再構築が必要と考えている。

本日は前回の協議会で皆様からいただいた意見も参考に、利用者目線に立った持続可能な公共交通の再構築に向けて、地域公共交通計画の第一次計画を策定したい。詳細については後ほど事務局から説明させていただく。本日も様々な視点から忌憚ないご意見をいただきたい。

2 会長挨拶

（高山会長）

以前からこのような県主体の協議会の設置をお願いしてきており、今回の協議会によって、国や県、市、地元、いろいろな方々の協力のもとに地域公共交通計画ができることとなる。

今回は第一次と第二次の二段階の計画になっており、令和7年度から令和14年度までの7年間の計画として、地元で持続可能な公共交通がつくられることをうれしく思う。

本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議事等

（1）第一次石川県能登地域公共交通計画等について・・・資料1

（2）令和7年度協議会スケジュール等について・・・・・・資料2

4 意見交換

(高山会長)

まず、議事（１）について、ご意見やご発言があればお願いしたい。

特に意見がないようなので、採決に移る。能登地域公共交通計画はお手元の案で承認いただけるか。

全員異議なく承認

(高山会長)

次に議事（２）について、ご意見やご発言があればお願いしたい。

(能登島交通：星野総務部長)

令和７年度の事業について、幹線を残して他は代替手段、例えばAI オンデマンド交通を検討があるが、おおまかなスケジュール感・方向性を示していただきたい。というのも、能登島交通では、昨年９月から今年１月まで、島の西側の路線について、日中デマンド実証を行った。令和７年度も区域を広げて実証運行を行う予定であり、県と足並みを合わせていきたい。

(事務局)

地域公共交通計画書のP37に時間軸を示しているが、地域内の移動手段の確保・コミュニティバスの運行などについては、二次計画として、令和７年度に策定し、令和８年度以降の実証運行を予定している。期限は特段設けることはせず、市町の復興状況や公共交通の利用状況等に合わせて協議していければと考えている。

(羽咋市：川口副市長)

令和７年度の検討の方向性について、奥能登・中能登エリアに分けて実務者レベルのワーキングを実施することについては良いことである。奥能登、中能登のそれぞれの現状や検討課題、地域に根ざした課題等の解決に向けてしっかり取り組んでいくことが必要である。

お願いになるが、実務者レベルのワーキングが重い意味を持つと思うので、地域公共交通についての先進事例紹介や、先進地の視察などの取組も含めて、深い議論をお願いしたい。

(事務局)

奥能登と中能登では公共交通の状況や、震災等の被害状況も違っている。エリアを２つに分けて、今後の方向性を検討したいと思っている。

ワーキングは実務者として、各市町の課長級以下で協議していければと考えている。先進事例は、県内外の事例を運輸局の協力も得ながら紹介したい。視察を行う場所も含めて、国とも相談しながら有効な手段を考えていきたい。

(珠洲市：金田副市長)

議案第2号の、会議の開催の(2)で、ワーキングの開催は必要に応じて、ということになっている。昨年度は奥能登と中能登で1回ずつだったが、事業計画の中で開催回数を計画しておいた方が良いのではないかと。協議会本体が年3回開催ということであれば、その直前が良いのではないかと。各々の自治体によって復興状況も異なり、月単位で状況も変わる可能性がある。それを適宜、誰が判断するのも気になる。

ワーキングは先進事例の理解もそうだが、情報共有も重要。情報共有という意味では、開催する日を決めてしまった方が、担当者もそれに合わせて情報収集や議題の用意等をするだろうし、県の方で段取りしていただいた方が、公共交通の課題認識を共有できるのではないかと。

アンケートについても、奥能登はこれから何度もアンケートをすることになるが、タイミングを誤ると回答が激減する恐れがある。自治体の状況も見ながら、アンケートの時期や対象等を検討することも含めて、私の思いでは、年度始めの4月か5月に1回目を開催すべきと思う。年度始めに各市町担当者と認識や方向性を合わせておくことが実効性の高い計画になると思う。

(事務局)

市町担当者、交通事業者、運輸局とも調整を重ね、定期的に行い、深い議論ができるよう検討していきたい。

(高山会長)

他にご意見がないようなので採決に移りたい。議案2と3は密接に関連する内容なので、まとめて採決したい。これらの2つについて、原案通り承認することで異議はないかと。

全員異議なく承認

(高山会長)

他にご意見のある方がいればご発言いただきたい。

(JR 西日本：鹿野室長)

今回の地域公共交通計画について調整にご尽力いただいた石川県には感謝申し上げます。事業者単独で実現できることは限られているが、地域交通について、どのような施策が必要か、またその実現手法について、皆様と議論して良いものにしていきたい。

3月7日に観光列車「花嫁のれん」が運転再開した。再開当日は金沢駅にて出発式を行い、皆様にお祝いいただいた。和倉温泉駅では、温泉関係者を含め地域の方々に歓迎いただき、感謝申し上げます。この列車の運転再開においては、大変艶やかな電車ということもあり、再開のタイミングについて社内でも議論があった。地域の方を始め、多くの方にご相談させていただき、このタイミングの再開とした。

一人でも多くのお客様に能登を訪れてもらうことが復興の後押しになると考えている。地域公共交通計画においても、観光列車「花嫁のれん」の本格的な運転再開について記載いただいているが、復興状況や利用者の回復状況も踏まえて検討していきたい。

また、ツールの一つとして、金沢能登 tabiwa パスも今後の能登旅行を見据え発売を再開している。このようなツールも活用して当地にお客様を送り込めるように取り組んでいきたい。

（高山会長）

観光列車「花嫁のれん」は人気が高くなかなか予約が取れない。2号車などもあればいいと思う。

（のと鉄道：中田社長）

甚大な被害を受けた能登地域において、公共交通ネットワークの再構築に向けた議論が進められてきた。本日、持続可能な公共交通再構築に向けてその方針がとりまとめられたことは大きな意義がある。のと鉄道も地域の基幹的な交通事業者として、その責任を果たすべく今後も尽力していきたい。

のと鉄道の現実としては非常に厳しい状況である。特に差し迫った課題は運転士不足である。非常に厳しい採用環境が続いている中ではあるが、社内で人材を確保し、運転士の育成を進めることで、運行維持に努めたい。

利用促進の取組について、震災以降利用者数が減少しており回復の見通しも立っていないが、利用回復に向けて、様々な事業展開を考えているところである。現在、ポケモン列車を活用したイベントを実施している。全線復旧から1年となる4月6日からは、新たに通年のイベント企画を開始したいと考えている。土日祝日にポケモン列車に乗っていただくと、月ごとに異なるデザインの記念乗車証が配布され、それを集めることで1枚のイラストが完成するようなもの考えている。

次に、震災語り部列車について、4月6日から観光列車を用いて運行する。この観光列車は震災当日に運行していた車両であり、震災後は運行を見合わせていたが、今回震災語り部観光列車として再び運行することとなった。また、これまでは団体予約だけ受け入れていたが、今回は個人の予約も受け入れることとし、運行は1日3往復を予定している。個人の申込は、ホームページや電話でご利用日の1カ月前から前日の12時まで予約を受け付けている。

こうした取り組みを通じて能登の様子を知ってもらい、足を運んでもらうことで地域の再生に貢献していきたい。

最後に、地域公共交通計画を上位計画として関係各位のご尽力により再構築計画が取りまとめられたことに感謝申し上げます。今後とも、利便性の向上も含めた様々な工夫を重ねて利用促進に努めていく所存である。

（高山会長）

のと里山里海号も素晴らしい列車であるし、ポケモン列車も子供たちにとってはとても楽しみなのではないかと思う。

(北陸鉄道：高橋部長)

能登方面の特急バスについて、必要性を皆様にご理解いただいていることに感謝申し上げます。前回協議会で、利用実態に応じて減便したい旨を申し上げたが、その実施の内容が3月15日改正のものである。輪島特急は6往復のままだが、珠洲接続便が5往復から4往復に、宇出津接続便は5往復から3往復にしているが、これは被災前の便数よりは多い状態を維持している。少しずつ利用者の認知度が高まってきたのか、あるいは金沢へ向かう用事が多くなってきたのか、利用状況は少しずつ好転していると感じている。今後とも能登特急バスを利用していただき、長く存続できるような形を構築していきたい。

3月27日から金沢エリアと能登特急バスでキャッシュレス決済が利用できるようになる。国土交通省が掲げるキャッシュレスバスの実証実験に参画させていただいており、昨年11月からは金沢市内の周遊バスで実証実験に参画させていただいた。不特定多数の利用者がおり、周知等に課題があったが、現金比率が13%強から最終的には2%、日によっては1%にまで減少した。バス事業者としては完全キャッシュレスという形が取れば様々なコスト削減にもつながるものの、利用者への周知や理解が必要である。運転士の環境改善も踏まえて、キャッシュレスに移行するのは間違っていないと感じている。是非とも、特急バスを利用する際に、キャッシュレス決済を利用していただきたい。

今後とも北陸鉄道グループのバス、鉄道ともに尽力していくので、引き続きのご理解をいただきたい。

(高山会長)

今回3回目の協議会ということで、能登地域公共交通計画を皆様にご承認いただいた。第二次計画については、来年度具体的に詰めていくことになる。その詰め方で、先進地の視察やワーキングのスケジュールを4月早々に決めて円滑に進めたほうが良いとの意見をいただいた。この点については県市町で協議いただき、実務者レベルで具体的な日程を決定していただきたい。

いずれにしても、基本方針1～3が実現できるように公共交通計画が作り上げられれば、地域住民のみならず、観光客等の外部から来られる方の足の確保にもつながる。

北陸地域は魅力的なところであり、観光客も多い。ただ、冬の時期になると能登半島まで足が伸びる観光客が少ない。雪がない時は自分でレンタカーを借りて運転するが、積雪があると運転に抵抗感が生じ、なかなか観光客数が増えなかったと思う。公共交通があれば安心して飲酒後でも移動できる。観光客にとっては魅力的なものである。

この後は司会を事務局にお返ししたい。

5.閉会

高山会長と委員の皆様におかれましては、昨年8月の第1回協議会から長きにわたり参加いただき感謝申し上げます。本日承認いただいた第一次計画を実効性あるものにするためには、皆様のご協力が不可欠だと思っている。また、来年度も第二次計画の策定があるので、今後ともよろしくお願い申し上げます。以上をもって、第3回石川県能登地域公共交通協議会を終了する。

以 上

